

土・まち・みどり

通信 第44号

2011.8.7

発行 NPO 法人土とみどりを守る会

連絡先 6421-2118 (事務局)

CONTENTS ◆総会・ミニ園遊会 ◆おくさわ今と昔 ◆クールシェアをご紹介します
◆描かれた奥沢とその周辺 ◆活動報告 ◆会からのお知らせ

土とみどりのミニ園遊会

5月のつどい



(いつもの受付風景)



(屋外の総会)



(パラソルの日陰での語らい)



(子供たちの参加)

恒例の五月のつどい、土とみどりのミニ園遊会は
燦々と輝く五月の陽光のもと行われました。

総会

ミニ園遊会に先立ち3回目の通常総会(通算では
第9回)が開かれました。いつもの前年度実績報告
と今年度活動計画の審議に加え、今回は役員の新任
や事務所移転(柳島宅から堀内宅へ)を審議し、満
場一致で承認を頂きました。昨年度は掲示板4基の
更新を一括して実施したため赤字となり、役員から
の借入で凌ぎましたが、節約運営で乗り切り今期に
は赤字解消できそうです。今後も皆様の会費とご寄
付を大切に使う健全な運営を行い、土とみどりの
心安らぐ街づくりに努めますので、ご支援宜しくお
願います。

ミニ園遊会

今年もパラソルの日陰で参加者によるお茶とお菓
子の楽しい語らいと、花苗やお菓子、食品の個人販
売を楽しんで頂きました。今回は若い人たちや子供
の参加が増えた感じで、華やいだ賑やかなつどい
になりました。販売に参加された方、花苗や品物を提
供された方、ありがとうございました。カンパのつ

もりで買って下さった参加者の方々、空地を快く貸
して下さいました原さんのご好意、騒音にも我慢して下
さった周辺にお住まいの方々本当に感謝申し上げます。

頑張れ福島コーナーの売店

3月11日東日本大震災の報に接した時は、この
つどいを開催して良いものか、会としては悩みまし
た。私達に何が出来るかを話し合いました。

台湾とのお付き合いの深い平野理事の意見で、台湾
茶の製造販売業を統括する全国組織「台湾茶業公会」
が震災支援のために、寄付してくれた「祈日本平安」
という台湾茶を販売し、被災した伝統文化への支援
を行うことにしました。売上げは相馬、南相馬二市
で行う「相馬野馬追い」の復興に6月送られ厩舎の
再建に使っていただくことになりました。

また福島県川俣町出身の杉村理事は従来より、町
民からの依頼により味噌、梅干し等の川俣産品をこ
のつどいで販売してきましたが、今回は少しでも多
く協力したいと思ひ品目も増やし取組ませていただ
きました。

お買い上げいただいた皆様、カンパに協力していただ
いた皆様、誠に有難うございました。(鈴木)



(販売風景-食品)



(台湾茶の販売)



(川俣町産品の販売)



(販売風景-花苗)

おくさわ今と昔

(このシリーズでは奥沢に長くお住まいの方と新しく移ってきた方々など、毎回2人の住民の方が登場し、この街にちなんだエピソードを語っていただきます。)

「 想 い 」

奥沢2丁目 澤野 靖

幸せって

心の幸せって、考えて？

このたび東日本大震災に際しては多くの人のおかげで義援金、支援金が集まっている様です。又世界の各国から支援の手を差し伸べて頂いている様です。これも日本が他国から見てあこがれの国になっているのでは？感謝のほかありません。

津波におそわれた東北の様子を話や写真等で見せて頂きふと気づき想い浮かびましたのが、八月十五日(終戦記念日)、「大東亜戦争」で焼け野原になった東京の風景でした。

見わたすかぎりなにもない、この時には義援金等の支援がなかったのでは、しかし復興には時間を要した様ですが皆さんの力、人々との和をもって行動で日本はがんばりました。そして昭和二十年八月十五日昭和天皇がラジオを通じてすべての国民に終戦を呼びかけられたこと、その時のお言葉で「自分はいかになろうとも、万民の(すべての国民)の生命を助けたい」—

私は後日レコードにて聞かせて頂きましたがこの時ばかりは、人の道、やさしさ、涙の涙で心打たれました。

大震災の復興には時間がかかるようですが早々に元の状態になってくれますように願っております。

すきな言葉(論語)

「和して同ぜず」

「奥沢に移り住んで」

奥沢2丁目 木村 陽子

不思議な縁に導かれ、奥沢の地に移り住み半年が経ちました。最初「オクサワって何処？」と言った田舎者ではありますが、人情味溢れる地域の方々に支えられながら、根を下ろしつつあります。自宅ではお向かいの庭の木々をお相伴させて頂き、外に出ると様々な草花に目を奪われ、「東京という都会の中で、なんて緑が多い所なのだろう」と驚嘆の毎日を送っています。

3.11 震災の筆舌し難い被害を思い沈みがちな日々

を送っていた中、春の寄せ植えをしようと、我が家の細やかなテラスで土に触れると、何故か気持ちが落ち着き、今更のように、人は土や緑と離れては生きていけないことを気付かされました。

その後、ある方が何でも手に取ろうとする好奇心旺盛な息子を見て、「物って単に見ただけでは分からない。手に取って反対側を見ると違った形だったりするから触れて感じたいのね。知らないと見えてこない物もある。花の名を知らないとなんて花でしかないけれど、学ぶと、すみれ、向日葵、秋桜、水仙、と世界が広がるわね」と言われ、子供は五感全てを使って未知の宇宙を感じ取ろうとしているのに、四季の花の名前も覚えぬ自分はなんて無知なのだろうと子供から教えられた一コマでした。

日々の生活の中で緑の香りや色、通り抜ける風などを感じ、知ること、自ずと自然を愛する心が生まれるのではないかと思います。常に緑を慈しまれている奥沢の方々に敬服するばかりです。

震災直後、大型店で商品棚が空っぽの状態を目の当たりにし、途方に暮れかかった際、普段通り営業を続けた商店街の方々の笑顔に勇気付けられました。「家は米屋だから米はあります、大丈夫ですよ」と優しく応対して下さった米屋さん、「震災翌日、お客さんはゼロでしたが通常通り営業していました」と話された花屋さん、「大豆だけはしっかりと蓄えてあるから店は開ける、心配ないよ」と励まして下さった豆腐屋さんなど、〇〇屋さんが消えていく昨今、その看板を守っていこうとする方々の気概に強く感銘を受けました。

今回の震災を通じて、「人は一人では生きていけない、地域社会の見守り無しには、子供を守っていけない」と痛感させられました。もし今後、災害に見舞われることがあったとしても、それを乗り越えられる力が、歴史深く、緑豊かで、人情厚い奥沢にはあると感じています。

現在、知りあいも増え、「奥沢に越して来て本当によかった」と思いつつ育児をしています。息子に気さくに挨拶を交わして下さる地域の方々に見守られながら過せることを幸せに思うと同時に、「出来る時に出来る事を」を胸に、今後何か地域の皆様にお返しが出来ればと願う毎日です。

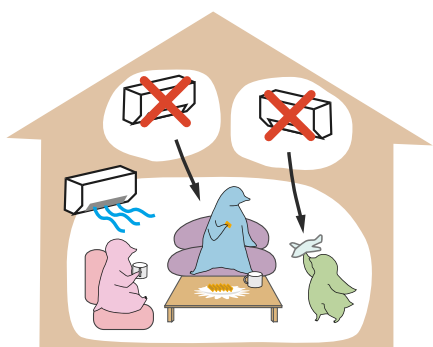
クールシェアをご紹介します



堀内代表理事が多摩美術大学で進めている「クールシェアプロジェクト」に土とみどりを守る会として協力することが、7月の理事会で決まりました。

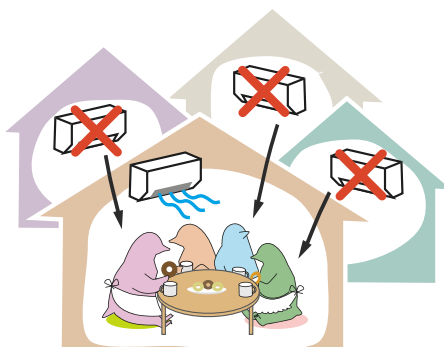
クールシェアは、ひとり一台のエアコンを使うというムダをやめ、涼しい場所をみんなで楽しくシェア（共有）することで、夏のピーク消費電力を減らそうという考えです。ご近所で「ちょっとクールシェアしませんか」と声をかけあって、集まる機会が増えれば、ご近所のおつきあいの輪も広がって良いですね。

おうちでクールシェア!



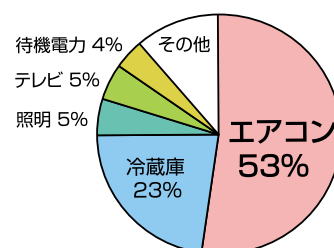
3台のエアコンをつけていたら2台を止め、1部屋に集まり家族団らんを。

ご近所でクールシェア!



自宅のエアコンを止め、ご近所のお宅に集まって楽しいおしゃべりタイム。

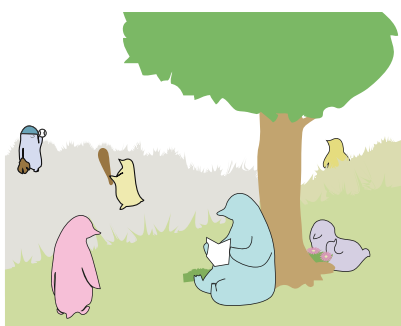
夏の日中(14時頃)の消費電力



(資源エネルギー庁の推計)

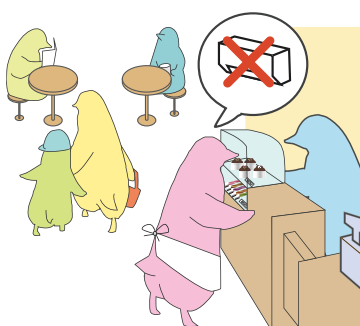
夏の電力消費ピーク時、産業部門は削減の義務化により、一定の成果をあげることが期待されるのに対して、家庭での具体策はあまりありません。

公園でクールシェア!



エアコンを止めて公園に行き、大樹の下や水辺などの涼しい場所で過ごす。

まちでクールシェア!



パブリック空間やカフェなどを、エアコンを止めて来た人たちに提供する。

家庭では、エアコンの電力消費が突出していますので、エアコンの使用をひかえれば、大幅な電力消費の削減が期待できます。

ただ、エアコンを停止させて我慢するということでは、熱中症になる危険もありますので、暑さを忘れて楽しんで、皆で交流するような提案を同時に行うのが、クールシェアの特徴です。



描かれた奥沢とその周辺

最終回・石坂洋次郎「陽のあたる坂道」

(シリーズで小説や随筆に登場する奥沢の様子を紹介します。)

「石坂洋次郎」の名を聞くだけで、青春の甘酸っぱい思い出が胸にじんわりにじみ出す方も多いのではないでしょうか。中でも代表作のひとつ、「陽のあたる坂道」の舞台は緑が丘でした。

☆もう、おおかた正午ちかい時刻である。

そのころ、O大学の国文科の三年生である倉本たか子は、緑が丘のしずかな住宅街を歩いていた。自由が丘の駅で下りていく道は、どこもゆるい上り坂の道になっており、南面しているの、その坂道にはいっぱい陽があたっていた。

両側には、大きな邸宅が並び、ヒバやサツキやジンチョウゲなど、垣に植えられた樹々の緑が、目に沁みるように美しかった。将来、家庭をもち、子供を生み、年齢にして四十か五十になるころには、自分もこの程度の家に住むようになりたいものだ。たか子は、そんな思いで、両側の家を、一つ一つ念入りに眺めながら、明るい坂道を上っていった。

☆二人は家を出た。そして屋敷の横の坂道を下っていった。(略)自由が丘の細長いマーケット街で、二、三の買い物をすると、トンネルでも抜けるように駅前の広場に出た。

☆ふり向くと、空き地の向こうにひろがった街の見らしの中に、国立病院の棟を並べた建物や、都立大学の高層建築などが目立っていた。(略)とき

どき来ているというおと、雄吉は、ひろい空地の足場のいい所を横ぎって、野球場のある所に出ていった。(略)二人はそこから球場の中に入っていった。無人のひろいグラウンドやスタンドには、冬の陽がさんさんと降りそそいでいたが、どこやらくたびれ果てたような気分が漂っている。シーズンのころの、観衆が一ぱいつめかけて、ワーン、ワーンと喊声をあげている響きが、まだ、そこらへんにかすかに残っているような気もする。

読売新聞に連載されたこの小説は、石原裕次郎をイメージして書かれました。

1958年、最初の映画化の際も主演は石原裕次郎でしたが、舞台は田園調布に置きかえられています。ちなみに、文中に出てくる「球場」とは、東映フライヤーズ(現日本ハムファイターズ)の本拠地であった駒澤野球場のことで、1962年に廃止されたあと、駒沢オリンピック公園となりました。

奥沢周辺は小説やエッセイのほか、古くは「自由ヶ丘夫人」、最近では「ゴースト」などの映画にも、さりげなく使われています。それらに触れることは、見慣れきった「わが町」の魅力の再認識、あるいは新たな発見へとつながる、ひとつのきっかけになるかもしれません。皆様も是非、奥沢周辺が登場する作品を探してみてください。(香山)

活動報告

●地域の落ち葉掃きプロジェクトの2年目を推進するために、区の平成23年度地域の絆支援事業に申請し、7月末に決定の通知を頂きました。昨年の試行で培ったノウハウをベースに今年は本格化や拡大に取り組みます。実施に当たっては、奥沢交和会、奥沢小学校等とご相談しながら進めていきますので、ご協力宜しくお願い申し上げます。

会からのお知らせ

- 8月20日(土)10時奥沢東地区会館でフラワーアレンジメント講習会を開きます。身近な材料を使って楽しめますから、同封のチラシをご覧ください(申込み締切は8月17日)。
- 9月24日(土)にまちあるきで大田の懐かしい昭和の建物を訪ねます(同封のチラシご参照)。
- 土とみどりを守る会はいつでも新会員を募集しています。会の活動を支える会費は1口1,000円です。

どうぞ御協力をお願い致します。入会のご連絡は下記へ。

土とみどりを守る会 連絡先

世田谷区奥沢 2-32-11 堀内正弘 5701-5901

世田谷区奥沢 2-19-9 長瀬雅義 5729-0126

世田谷区奥沢 2-18-6 鈴木 仁 3723-6659

ホームページ : <http://tsuchimidori.net>

e-mail : info@tsuchimidori.net